

あぢほ いろい

食の味がなるト木来ッハノトを見て確^ト張^トす

注交ニテいても 来年の九月以後に来ッ

のを見てお 此方ない

今更にもつてぶぶすニとにす

ニの生活 一ト昔を思い出す

才二次大戦後

本当に 手紙もあがッ

合程はもちろらん 生活は此 手紙もあがッ

自分の家から 十五分ほど 行なれッ

駅の前へムッテ 行ッ

焼死場じやア所を通過して 駅まで 行ッ

駅まで 遠くを、アが 手紙の 函屋の、

トケレの如ク 巨もアが あッ

水道がニあわて 千ヨロク 水が去ての所

来ッ 氣をフケテ 歩ッ

水水入ッテ 手紙を 歩ッ

そんな中では 食料 程 江何とわしい

ミレシの 手紙 いろいの 絵が

私も 手紙 いろいの 絵が

